

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所
令和7年6月17日(火)

第2号

電話 0294-34-0774

E-mail:hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

R6いじめ認知件数調査・不登校援助指導状況調査から生徒指導対応を考える

県北管内いじめ認知件数は、全国平均を上回る

いじめの認知件数は、昨年度と同程度となっています。いじめ認知率（いじめ認知件数÷児童生徒数×100）は小学校が12.54%、中学校が8.74%となっています。令和5年度問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査における全国の平均いじめ認知率（小学校9.65%、中学校3.81%）と比較しても、県北管内のいじめ認知率は高い状況です。いじめの定義の再確認を行い、「いじめ見逃しゼロ」を目指し学校全体で取り組んだ結果だと考えられます。しかし、いじめ認知に対する学校間の格差は依然として大きな課題として捉えています。いじめ認知に対する組織的な対応の再確認をお願いします。また、いじめ重大事態の発生件数も全国で1306件（R5問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より）、そのうちの490件（37.5%）が深刻な被害が生じるまで学校がいじめとして捉えていなかったと報告されています。ささいなことと個人で判断することなく、管理職を含めた組織全体で情報を共有し、いじめ重大事態に対する平時の備えの充実に努めていただきますようお願いします。

	R4	R5	R6
小学校	850	1379	1361
中学校	307	494	513

【資料1】管内いじめ認知件数（件）

	R4	R5	R6
小学校	2.35	2.96	2.38
中学校	7.55	7.71	7.77
合計	4.17	4.61	4.26

【資料2】管内不登校率（%）

不登校率は低下したものの、中・新規不登校者数の増加が顕著

不登校率は小学校については減少、中学校については若干の増加となっており、全体としては減少に転じています。不登校の未然防止に向けては、教科指導と生徒指導を一体化させた授業づくりと集団づくりが大切です。「どの児童生徒にとっても分かる授業、どの児童生徒にとっても面白い授業」になるよう創意工夫することが必要です。また令和6年度は、中学1年の新規不登校生徒の増加が顕著になりました。各学校の引き継ぎ等での情報交換は十分に行われているでしょうか。小中連携の更なる充実をお願いいたします。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が「目標・ビジョン」を共有し、学校運営の改善・強化だけでなく、地域づくりにも効果を発揮するという関係性が、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」となります。みなさんのコミュニティ・スクールはどうでしょうか。

例えば、文部科学省では「CSの運営に関するチェックシート」を紹介しています。このようなものを利用して運営の状況や成果を振り返ってみましょう。

https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/R5CSportfolio_check_sheet.pptx

また、県北教育事務所では「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進事業」を実施しています。「どうすれば会議が活性化するか?」という相談や、そもそも「何を相談してよいかかわからない」という相談でも構いません。お気軽にご連絡ください。コミュニティ・スクールが導入されても、成果が出るまでには時間がかかります。あせらず、じっくりとした取組をお願いいたします。



コミュニティ・スクール事例

～常陸太田市立水府小・中学校～

水府小・中学校の学校運営協議員は、地域コミュニティ代表者、主任児童委員、元PTA役員、現PTA役員などから構成され、「ビジョンを共有した地域とともにある学校づくりの充実」に向け、3つの部会を設けています。

学習部会では、そば作り、地域の方とグラウンドゴルフ交流(中)、ヤマメの放流体験(小)、環境部会では、フラワー・ロードづくり(中)、安全部会では、月・水曜日の下校ボランティア(小)などを行っています。地域と関わり、地域から学ぶことで「ふるさと水府を愛する心豊かな児童生徒の育成」を目指して、教育活動に取り組んでいます。

